

信大病院市民公開講座「心臓血管病の未来を拓く」

治療・予防法 大きな関心



信大病院の市民公開講座「心臓血管病の未来を拓く」のパネルディスカッション

来年度に先端心臓血管病センターの開設を計画している信大病院（勝山昭院長・松本市）は、市民公開講座「心臓血管病の未来を拓（ひら）く」（信濃毎日新聞社の後援）を同市内で開いた。腰椎（こし椎）、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症の三天血管病は、合計する心臓病（しゆよう）を超えて日本人の死因の第一位を占めており、その治療・予防法は大きな関心を集めている。参加者からの質問を基に進められた、今月一日のパネルディスカッションの内容を紹介する。（司会は飯島裕一・信濃毎日新聞編集委員）

—「不整脈」とはどんなものか。

日本人の死因第1位

再生医療臨床応用八

長 池田一・循環器内科
正常な心臓は規則正しい拍動しているが、それが乱れたり時々休んでしまつのが不整脈。多くは加齢や疲れとともに出てるので心配ない。中でも多い「心房細動」は、命にかかわらない不整脈と言える。

再生医療

科学

著・米ベイア
著者　これまで心臓移植は、心臓移植のつまびらかに使
う。信大病院でも近々臨床に応用したい。

が傷んで起きる心筋症にとどく心筋梗塞（こうそく）のものを治す」とを考え方には、筋肉が一・五二倍く」になる。

に厚くなる「肥大型心筋症」と、概のように薄く取つて狭くなつたす、その働きを助け又補助する「拡張型心筋症」が部分のう回路を作る「バイパス手術」や、血管のその間に内科的治療を行なつて問題ないが、治療が必要となる細胞や遺伝子を注入して再生するなど、重要な場合もある。

「重血性心疾患はどの多くの選択肢がある。

「再生医療、臓器移植、胎などの未分化な細胞を使つて心臓の傷んだ部分を再生する「再生医療」。今後どうなるか。